

英 語 科

1・2年生の授業では、単語熟語、文法語法、構文等を計画的に学びながら、入試基礎レベル（共通テストレベル）の英語力の習得を目指して学習を行ってきました。3年生の授業は、2年生までの学習で築いた土台に基づいた、問題集等を使った演習が中心となります。

○ 日常の積み重ねが実力につながる

3年生の英語の授業は、週6時間（自由選択科目を取った人は週8時間）あります。学校の授業を勉強の中心に据え、最大限に活用してください。授業を意味のあるものにするために、予習は不可欠です。自分の聞くべきポイントがどこかを明確にして授業に臨むこと。学習内容を定着させるためには復習も欠かせません。短時間でもまずその日のうちに授業内容を見直しましょう。（具体的な予習復習のやり方は、科目ごとの説明のところを参照）3年生になり、他教科の勉強で忙しくなっても、「予習－授業－復習」というサイクルを崩さないことです。1回の予習、1回の復習、1回の課題、1回の小テスト勉強、1回の試験の見直し・・・その積み重ねこそが、実力アップにつながるのです。

○ 読んだ量は裏切らない

英語の長文読解力は、文章をいかに数多く読んでいくかに比例します。より多くの文章に触れ、英語のインプットを増やすことで、長文への苦手意識が払拭でき、いわゆる英語のリズムや英文の論理展開が身につく、語彙力のアップにもつながります。また受験本番が近付いてきた時、「自分はこれだけの英文を読んだのだ」という事実は、確固たる自信を与えてくれることでしょう。

予習や課題を中心に、「一日一長文」を目指してください。

○ 見えない強敵、それは「時間」

筆記試験には必ず制限時間があります。その制限時間内に実力を100%発揮できるように、日頃から時間を意識して演習に取り組むことを習慣化してください。「本当はこの問題解けたのに…」といくら嘆いても、時間内で解けなければ得点にはなりません。見えない敵は「時間」なのです。陸上競技でも水泳でも、自分より速い人や目標タイムに一生懸命追いつこうとしながら練習して、少しずつ速くなっていくものです。学校でも時間を意識した演習を行います。予習の際に時間を意識して読む練習を重ねることを実践しましょう。フレーズに区切り、英語の語順のまま理解することが速読の基本です。それはリスニングで必要とされる英文の理解力にもつながります。

○ 音読を重視しよう

英語力全般を伸ばすのに、効果的なのが音読です。長文の読解速度を上げる秘訣を問われた予備校の講師が、「音読のスピードを上げれば、読解のスピードが上がる」と答えたそうです。大学入試にも音読が効果的なのです。音読は一度精読して内容がしっかり理解できている既習の英文で行わなければ意味がありません。つまり、復習の段階で行うのが鉄則です。授業で読んだ文章を、5回は音読しましょう。

○ 単語熟語はまず出てきたものを覚える

語彙力（知っていて使える単語や熟語の数）を増やすには、まず教材に出てきた単語熟語を覚えることが基本です。それを単語集（チャンク英単語やLEAP）や長文に出てきた語句一覧を使って確認し、補強していくのです。やたらと評判の単語集を買い集めるより1冊を完璧に覚えましょう。

長文読解に語彙力が重要であることはもちろんです。しかし単語集を勉強していれば単語が習得でき、長文が読めるようになるというものではありません。多くの英文に触れ、様々な文の中で単語に接してこそ、単語力も身につけていきます。英語の勉強の中心は、より多くの英文を読んだり聞いたりすることであるべきです。その上で「隙間時間」を利用して、持っている単語集を活用しましょう。

単語・熟語の勉強は、とにかく繰り返してやることです。毎日ゆっくり進むよりも、1週間など期間を区切って速く進めて反復しましょう。

○ 終わった試験から学べ

試験の振り返りノートを作って、定期テストの復習をちゃんと行っていきますか。小テストの見直しもその都度やっているでしょうか。模試は何点取れたかより、やり直しをすることのほうにずっと利用価値があります。

終わったテストは最も効果のある問題集であると言います。間違えたところをしっかりとやり直すことが実力アップにつながります。

○ 成績について

原則として以下の「評価の観点」に従い、定期テスト・小テスト等の得点・授業への出席状況・授業態度を鑑みて総合的に判断し、成績を出します。

観点1 知識・技能の習得（体系化、汎用性）

外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。

観点2 思考力・判断力・表現力の育成（思考力、判断力、表現力）

場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。

観点3 学びに向かう力・人間性（実践力、協働力）

他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

○ 3年生で学習する科目

コミュニケーション英語Ⅲ（4単位）

● 予習

1. まずは辞書なしで文章全体を読み、どんな内容かを大まかにつかむ。

★ 読解力を身につけるには、語彙力、文構造をとらえる力（文法・構文の力）の他、文章の内容を推測する力が必要。予習ではまず辞書の助けを借りず、前後関係から推測しながら読む練習をすること。

2. 次に、段落ごとに精読する。文構造にも注意して、文の意味を考える。

意味がよくわからない箇所、構造がつかめない文、文法的に自分で説明できない部分、代名詞等の指示表現が具体的に何を指しているのか不明確な箇所等には、印をつけておくと良い。

わからない単語は辞書を引いて、つづり、品詞、意味などをノートにまとめておく。

★ ただ日本語に置き換えればいいのではない。どういうことを言っているのか、筆者の意図を読み取ること。

● 復習

1. ノート、授業中のメモを見て、ポイント（単語熟語、文構造、文法事項など）を確認する。
適宜、辞書や文法書を参照する。
★ 授業があったその日のうちに（帰ったらすぐ、あるいは学校で）やる。
2. 意味を考えながら、本文を何度も声に出して読む。シャドーイング等を音声を使って行う。
3. 意味を思い浮かべながら音声を聴く。
4. 重要な単語熟語を覚える。

英語表現Ⅱ（2単位）

● 予習

例題・基本例文と解説を読み、演習問題をノートにやる。

並べ替えの問題は、問題の答えとなる部分だけではなく、必ず英文全体を書くこと。

文法事項のあやふやな点は、参考書『Vision Quest』の該当箇所を読むなどして確認する。

問題文中のわからない単語についてもチェックを怠らないように。

● 復習

1. ノート、授業中のメモを見て、授業内容を復習する。間違えた問題はもちろん、授業のポイントをしっかり見直して理解する。
★ 文法語法問題は正解・不正解に関わらず、「なぜその答えになるのか」をしっかり理解すること。
★ 作文はまず基本例文をしっかり覚えること。また、自分で書いた英文の自己添削をするだけでなく、必ず模範解答の英文を覚えること。
2. 問題集の進度に合わせて、該当するスクランブルの章の項目を一つ一つ確認し仕上げる。